まりと殿様

昭和四年

西条八十　作詞　　中山晋平　作曲

一

てんてんてんまりてんてまり
てんてんてまりの　手(て)がそれて
どこからどこまでとんでった
垣根(かきね)を越(こ)えて　屋根(やね)越(こ)えて
おもての通(とお)りへ　とんでったとんでった

二

おもての行列(ぎょうれつ)なんじゃいな
紀州(きしゅう)の殿様(とのさま)　お国入(おくにい)り
金紋(きんもん)先箱(さきばこ)　供(とも)ぞろい
御(お)駕籠(かご)のそばには　ひげやっこ
毛(け)槍(やり)をふりふりやっこらさのやっこらさ

三

てんてんてまりは　てんころり
はずんでおかごの　屋根(やね)の上(うえ)
もしもし紀州(きしゅう)のお殿(との)さま
あなたのお国(くに)のみかんやま
わたしに見(み)せてくださいな　ください な

間奏

四

御(お)駕籠(かご)はゆきます　東海道(とうかいどう)
東海道(とうかいどう)は松並(まつなみ)木(ぼく)
とまり とまりで　日(ひ)が暮(く)れて
一年(いちねん)たっても　もどりゃせぬ
三(さん)年(ねん)たっても　もどりゃせぬもどりゃせぬ

五

てんてんてまりは　殿(との)さまに
だかれてはるばる　旅(たび)をして
紀州(きしゅう)は良(よ)い国(くに)　日(ひ)の光(ひかり)
山(やま)のみかんに　なったげな
赤(あか)いみかんに　なったげな　なったげな

楽音活（らくおんかつ）音楽健康コミュニティ